



## 海外旅行先としての大阪

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-07-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 紙谷, 鈴代 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/10392">http://hdl.handle.net/10466/10392</a>

## 海外旅行先としての大阪

大阪大谷大学人間社会学部教授 紙谷 鈴代

### 1 はじめに

平成18年版国土交通省編の『観光白書』によると、平成17年の訪日外国人は、673万人、旅行形態比率では、個人旅行84.1%、団体旅行15.9%（そのうちパック旅行11.3%）であった。上位の5か国、6地域の訪日旅行者の概数と、それが全訪日旅行者に占める割合（構成比）、それを旅行形態からみた、個人旅行者と、団体旅行者およびそのうちのパック旅行者の割合が下表である。アジアの国々と地域では、団体・パック旅行の比率が高く、欧米では低いことがわかる。

国・地域	訪日旅行者数（構成比）	個人旅行者	団体旅行者(パック旅行者)
韓国	175 万人 (26.0%)	81.4%	18.6%(13.5%)
台湾	127 万人 (18.9%)	55.0%	45.0%(36.1%)
米国	82 万人 (12.2%)	95.0%	5.0%(2.6%)
中国	65 万人 (9.7%)	80.4%	19.6%(11.2%)
香港	30 万人 (4.4%)	67.6%	32.4%(27.3%)
英国	22 万人 (3.3%)	98.5%	1.5%(0.6%)

各国（地域）とも、旅行形態比率では、団体・パック旅行は低い。しかし、それらの観光コースを把握することによって、旅行者が日本のどのような観光スポットを訪れることを望んでいるかや、旅行における国民の嗜好、特性を把握することが可能である。そこで、インターネット上に掲載されているパック旅行の旅程を調べることにした。

そこにあげられたツアーは、原則として、催行日が明示されているものを示した。しかし、これらのツアーは一定の参加者がなければ、催行されないから、実際にどの程度催行されたのかはわからない。ツ

アーの募集が実際の催行日以上に多く広告に掲載されているものも多いはずである。しかし、それらのことは、本稿の目的にとっては支障はないものと考えた。なお、本稿では、それらのツアーの旅程を一覧することができるように表に示した。ツアーの旅程については正確に表に記入するようにしたが、旅行社がWebサイトに発表した旅程表によると、募集時点では宿泊地や施設が決定されていないツアーがあるだけでなく、記述の明らかな誤りや、脱落などの不備もしばしば見られる。そこで、明らかな誤記の場合には訂正したが、脱落などで不明なときには、そのままの形であげることにした。本稿では、紙面の都合上、韓国、台湾、米国、中国、英国の5か国のツアーをとりあげることにした。

## 2 韓国（ソウル）発のツアー

韓国のツアーは、ソウルと釜山から多く催行されているが、以下は、ソウル発のコースについて見ることにした。本稿でとりあげたのは、韓国のNextourとHANA TOURの2社のツアーのうち、3月中に催行される予定のものであるが、それぞれの日本向けツアーを可能な限り表にのせることによって、日本向けのツアーの輪郭をとらえることができると思われる。なお、HANA TOURの場合には、Webサイト上ではツアー名とその催行日を一覧できるようになっていないため、本稿では、1ツアーについて催行日を1日しかあげられなかったが、これはすべての催行日を把握できなかったためであって、催行の回数を反映しているものではない。

韓国は、日本から最も近いこともあり、韓国人が日本を旅行する機会が多いが、日本の景色は韓国の人にとっては魅力となっているようである。そのため、ツアーの目的地も、東京や大阪の都市の観光とともに、全国の特色ある観光スポットに設定されている。また、特定の観光地に連泊して、そこで自由観光を行ったり、その周辺の観光スポットをめぐるコースも多く、それも日本各地にわたって設定されている。ツアーの期間は、どの地域へのツアーでも、2泊3日、

3泊4日のものが多い。

韓国からのツアーには、東京、大阪などの都会の観光ツアーもある。その場合には、自由観光とすることが多い。また、32、34、35のように、それらの地域で廉価な宿泊施設を利用するものもある。さらに、55のように、羽田発着の深夜便を利用した、1泊3日の自由観光のコースもある。しかし、都市への観光でも、東京ディズニーランドやUSJなどのテーマパークを組み込んだコースは意外に少ない。そのほか、東京の観光のばあいでも、31、53のように、仙台や福島から入国して、日光を経由して東京に入るツアーがあるなど、旅程が工夫されていることがうかがわれる。

韓国からのツアーのうち、韓国と距離的に近い九州をめぐるツアーは特に多く設定されている。湯布院、別府、阿蘇、雲仙、霧島、指宿など、日本の代表的な温泉をめぐるツアーがほとんどで、これらの温泉間を短時間で移動できる九州の特色を巧みに利用している。また、39、69のように、一部には、ハウステンボスを組み込んだツアーも見られるが、このようなテーマパークを組み込んだツアーの数は、他国とくらべても少ない。

韓国からは、九州以外にも全国各地の温泉をめぐるツアーが多いが、それらは、ソウルからの直行便のある日本の各地の空港を利用している。また、特定の観光スポットに限定したツアーも多く、スキーツアー以外でも、29、49、50、58、66、のように、同じ温泉に連泊するツアーもある。

韓国では、日本のスキー場は人気があり、冬季には、北海道、東北、中部への2～3泊の滞在型のスキーツアーも多く設定されている。

韓国の場合、世界遺産をめぐる旅は、京都の観光のなかで金閣寺をめぐる以外には、白川郷や吉野・熊野へのツアーは見られない。

総じて韓国のツアーは多様であって、その目的地には、個性をもった観光スポットも多く見受けられる。中国の多くのツアーや、台湾の一部のツアーに見られるような、東京から富士・箱根で一泊し、京阪神へ通して観光するというような類型的なコースは見られない。

韓国発のツアーはソウルと釜山から出発している。釜山からのツアーは飛行機によって日本に入国することもあるが、日本の西日本にむかうツアーには航路をとるものが多く見られる。釜山－博多間は、ジェットフォイルでは3時間程度であり、釜山－下関・博多間は、フェリーで13～14時間程度の距離であるから、船中で一泊することもできる。

一方、ソウルから日本に入国するには、空路を利用することが多い。また、日本の主要都市とソウル（仁川）との間には定期便があるため、日本の観光スポットに向かうには、最寄りの空港まで、短時間で着くことができる。また、41、67のように、一部のツアーでは、釜山を経由して日本に航路で入出国することがある。その場合、ソウル－釜山間は高速鉄道KTXが利用されている。

### 3 台湾（台北）発ツアー

台湾では海外旅行がさかんに行われていて、パックツアーも多く催されている。日本にむけたパックツアーも多くあるが、本稿では、「東南旅行社」「五福綜合旅行社」の2旅行社の催行する台北発のツアーについて見ることにする。

台湾は、日本から近いだけではなく、広く海外旅行が好まれるようであって、台湾から日本を旅行する機会が多いようである。そのため、ツアーの目的地も、都市の観光だけでなく、特色のある地方の観光地をめぐるものが多く、それが日本各地にわたっている。

東京、大阪などの都市を観光する場合には、自由観光にすることが多い。また、都市に入る経路についても工夫されているものがある。京阪神の観光の場合にも、121のように、関西空港から入国して、第1泊目を南紀南部とし、その後、引き返して京阪神に入るなど旅程が工夫されていることがうかがわれる。南紀南部は、南部梅林によって著名な観光スポットであるが、関西空港からは距離的にも比較的近く、早春の観梅という季節の特徴を巧みに利用してコースが組み立てられている。桜の季節には、大阪城や円山公園の夜桜、造幣局の桜の通り

抜けを他の季節のコースと入れかえているツアーも見られる。

その一方では、日本の代表的な都市である東京から、富士・箱根で宿泊して京阪神にいたる典型的なコースも設定されている。93、116～118はそのようなツアーであるが、120では、富士・箱根で宿泊するかわりに、世界遺産で人気の高い白川郷を經由して飛騨高山で宿泊するようになっている。また、台湾の場合には、中部国際空港を出入国地にすることが多いので、113のような中部から東京までのコースもある。

北海道、東北、関東地方では、それらの温泉をめぐるツアーが多数設定されている。宿泊も、107、108のように、東京から東北地方へ移動するために寝台特急を利用するものもある。

九州も多くの温泉が集中しており、人気の高い地域である。台北からの直行便の多い福岡から入出国することが多いが、雲仙、阿蘇、別府、霧島、指宿の各温泉のほか、ハウステンボスを宿泊地とした4泊5日のツアーが多い。

沖縄は台北からは1時間30分程度の距離にあるが、3泊4日で、沖縄本島北部・中部・南部をめぐるコースが設定されている。

以上のような、ツアーに組み入れられることの多い観光スポットに対して、ほとんど組み入れられていない地域もある。たとえば、中部国際空港を多く使う台湾のツアーも伊勢志摩には行っていない。中国地方のツアーは限られているし、四国では、道後温泉、奥道後温泉を除いてはほとんどがツアーに組み入れられていない。

台湾発のツアーには、日本のテーマパークを取り入れたものが多く見られ、ディズニーストランド、USJ、ハウステンボスが入っている。テーマパークの入場も、他国のツアーでは、オプションとして、料金に入っていないことが多いのに対して、台湾発のツアーでは旅行費用に組み込まれていて、事前に利用しないことを申し出た場合には返金されるようになっている。

なお、この時期には、雪景色を見るためのツアーは多いが、スキーのために日本にくるツアーは見あたらない。

台湾からのツアーは、沖縄の場合は3泊4日であるが、その他の地

域は4泊5日のものが多数を占める。

#### 4 中国（北京）発のツアー

中国発のツアーは中国各地から出発しているが、北京出発のコースに限って見ることにした。催行する旅行社は多数にのぼるが、本稿では、中国の三大旅行社「国旅」「中旅」「青旅」の各企業集団に属する旅行社を中心にデータを集めた。

中国から日本へのパックスツアーは、中国の旅行社の募集状況を見る限り、世界の他の国・地域にくらべて低調である。また、日本にくるツアーのなかにも、日本だけではなく、日韓両国を目的地とするものもある。その中で、日本だけを目的地とするものは6日間に設定されたものが圧倒的に多いが、4日間のものもある。また、日韓両国を目的地とするものには、10日間のツアーが多いが、それは、日本だけのツアーに多く見られる6日間の行程の最終日に韓国に向けて出国したり、またその逆に韓国の5日目の行程を終えて、韓国から入国するコースが多い。また、159のように、日本での観光のあと、グアム・サイパンに向かうコースも発売されている。

各社によって催行されるツアーの中には、同一コースが恒常的に催行されるものがあり、「経典遊」などと呼ばれている。その行程は典型的であって、6日間の行程で東京または大阪から入国して、その逆から出国するケースが大半をしめる。その場合、宿泊地は、大阪、京都、富士・箱根、東京、成田となり、それらをバスでめぐることが中心になる。大阪、京都、東京、成田の場合には、その近郊に宿泊する場合もふくめて、洋式のホテルでの宿泊となるが、富士・箱根地区では日本式のホテルと温泉を利用することになり、それを体験することがツアーの一つの目的になっている。

それらのツアーの旅行費用は、10日のもので10000元程度からある。6日のものでは、6000元程度であるから、一日につき1000元程度が普通であるが、オプションを多く設定することによって、価格を実際以上に低く抑えたものが多い。そのため実態とはかなりかけはなれた価

格のツアーもある。

つぎに、日本国内を移動する手段であるが、これはバスの専用車の利用がほとんどである。ツアーの大半が大阪と東京の間を移動するので、その間にある観光スポットに直行できるなど、効率的で有利なためである。そのため、移動に新幹線を使うことはほとんどない。特に東京、横浜と富士・箱根間では観光スポットを短時間で結ぶことができるためにほとんどがバスを利用している。京阪神と富士・箱根の間でもバスによる移動が主であって、行程によっては、その中間の豊橋、浜名湖などで、一泊することもある。しかし、154のように、移動が楽にできるように、京都から乗車して、富士・箱根にいたるまでの間で新幹線を利用することをうたったコースもわずかながら見られる。

中国からのツアーでは、新幹線に乗ることが希望されるようで、新幹線を体験するために短い区間で乗車することをオプションで提供することが多い。その場合には、行程の一部を、バスから新幹線に乗り換えることになるが、主として、駅間の距離が短く、列車の本数が多くて便利な大阪－京都間を新幹線自由席に乗ることによって行われている。その場合、新幹線大阪－京都間の新幹線自由席の料金は高額とは言えないにもかかわらず、ツアーでは新幹線の乗車とそれにとまなう伊勢丹展望台など他の施設の利用料金とあわせて、日本円で4000円程度のかなり高額なものとなっている。ツアーでオプションの東京のディズニーリゾートの入場料として設定されることの多い金額8000円の半額ほどの割高なものである。

## 5 米国、英国のツアー

米英の旅行社の企画による日本のパックツアーにおける最も顕著な特徴は、東京と京都に宿泊地が集中し、長いものは5泊もしていることである。次いで富士・箱根が人気で、ほとんどのツアーに組み込まれ、2泊するものもある。そこから、バスで三島か小田原に出て新幹線で京都入りするものの他、高山から白川郷を訪ねることも人気が高いが、それには世界遺産登録と、安房トンネルの開通が大きな要因と



なっている。金沢や、14のように和倉温泉まで北上し有名旅館に宿泊するものもある。伝統的な日本旅館は、16では宮島が組み入れられ、オプションとして、京都滞在中に提供されているものもある。22では、旅館が9泊、高野山の宿坊に2泊する。少なくともこれらの旅程に関するかぎり、英国系のほうが変化に富んでいるようである。この背後には、旅館側の多大な努力があったことがうかがえる。

米英のツアーでは、40%ほどが広島、宮島方面をコースに設定しており、新幹線を利用することが多い。広島に対する思いが強いことは、コース説明文にもみられる他、旅程を延長して見学することを可能にしているツアーがあることにも見てとれる。なお、22と23は安価に設定されているが、Japan rail passが必携とされている。

他に、園芸を好む英国国民性を表すような、日本庭園を特集したツアーも19の旅行社によって別途提供されている。

JTBは、Sunrise Tour として外国人向けの国内旅行を展開しているが、旅程の組み方は米英のツアーと酷似している。関西国際空港を利用するものも多いが、大阪観光を入れているものは少ない。

近鉄インターナショナルの場合は、Ichiban という商品名のツアーを設定している。企業の基盤にたって、名古屋から伊勢志摩、京都および奈良と、系列の近畿日本鉄道のレイルパスを利用することによって、大阪を重要な観光地として取り上げている。

## 6 観光スポットの特色

観光スポットごとにみられる特色を京阪神から東京に向かって順に見ていくとつぎのようである。

### 【関西空港】

海外旅行では、入出国にともなって、空港周辺で宿泊することが多いが、成田空港でもその周辺での宿泊が多い。それに対して、関空の場合には、宿泊地の詳細が明示されていないことが多いので、正確にはわからないが、明示されているものに限って見れば、空港周辺での宿泊は少ないようである。また、関空周辺で宿泊する場合には、近隣

の大型店舗での買い物をあわせて行うことが多いようである。

### 【大阪】

大阪の訪問地は、大阪城と心齋橋・道頓堀がほとんどをしめる。心齋橋・道頓堀は代表的な商業地として紹介されているが、宿泊場所によっては、近いこともある。大阪城は、ふつうは登城しないので、実際には大阪城公園にとどまることになる。時期によっては、夜桜の鑑賞に設定されることもある。日本橋電器街は免税店などの関係で、案内されることがあるようだが、組み込まれているツアーは少ない。ツアーが東京－大阪間に設定される場合には、日本の電子・電器製品を購入するための場所としてはむしろ、秋葉原電器街が組み込まれることが多い。大阪で立ち寄る観光施設・商業施設としては、以上のものがほとんどで、わずかではあるが、空中庭園がコースに入れられることがある。また季節によっては、造幣局、桜宮公園が組み入れられることもある。なお、USJが大阪にありながらほとんどのコースに組み込まれないのは、テーマパークのテーマのちがいによることが大きいだろうが、東京ディズニーリゾートが、多くのコースに組み込まれているのとくらべても、その違いは大きい。また、日本人には人気のある海遊館なども選択されることはないようである。

### 【神戸】

神戸が観光や宿泊地になることは多くない。市内の観光は中華街が中心であるが、明石大橋をめぐるものもある。神戸では、神戸牛が注目されていて、神戸の夜景を見ながら神戸牛を味わうというオプションが用意されていることがある。ただ、神戸牛は、関西だけでなく、関東でもよく知られているので、阪神地区だけでなく、東京でも神戸牛の食事がオプションで用意されることがある。

### 【京都】

京都の観光施設では、西陣織会館、金閣寺、清水寺、平安神宮、嵐山が多くのコースに組み入れられている。二条城、御所はほとんど無い。数は少ないが、祇園で芸妓の鑑賞を組み込んだものもある。また、周恩来の詩碑のある嵐山も人気が高く、コースに組み込まれることが

多い。そのほか、季節によっては円山公園、宿泊場所によっては四条河原町などの繁華街が組み入れられることがある。しかし、それ以外の京都の観光地は概して人気が無く、日本人には好まれる閑静な京都の寺社は、ほとんど組み込まれていない。

### 【奈良】

奈良は、米英のツアーでは入れられているが、それ以外ではほとんど組み込まれていない。東京と京阪神の間を移動するツアーでは、奈良が日程に組み入れにくいことや、奈良市内への道路事情がよくないことにもよると思われる。そのため、157のように、4日程度で関西だけをめぐるコースに組み込まれる程度である。

### 【豊橋・浜松】

中国発の多くのツアーの行程は京阪と東京の間であり、その途中の富士・箱根で一泊することが多いが、さらに富士・箱根と京阪神の間でもう一泊するところとして、その中間に位置する豊橋、浜松が宿泊地になることがある。とくに、富士・箱根で宿泊したあと、富士・箱根周辺の観光に重点がおかれたり、富士山五合目までのオプションツアーが組まれるなどの理由で、かなり多くの時間がさかれている場合には、京阪神と富士・箱根の中間でさらにもう一泊する必要がでてくる。そのような場合に、これらの地域が宿泊地とされることがある。なお、豊橋よりさらに西寄りの地区が選ばれることもある。

### 【富士・箱根】

中国発のツアーは、京阪と東京の間に設定されることが多いが、富士・箱根はツアーのなかで最も風光明媚なところであるとともに、日本式の温泉とホテル・旅館を体験する場所として選ばれている。東京と京阪神のあいだのツアーでは、日本式のホテルや本格的な食事はこの宿泊に限られる。宿泊する観光スポットは、富士・箱根の広い範囲にわたっているが、箱根・芦ノ湖周辺や河口湖周辺が多い。伊豆は118のツアーのように、わずかに見られるだけである。さらに、富士山五合目までのオプションツアーが組まれることが多く、それによってかなり多くの時間がさかれている。米英のツアーでは、前述のように

最も人気が高く、2泊しているものもある。

なお、東京、京阪間を移動しない各国のコースでは、東京から日帰りで設定されることもある。

### 【東京】

東京の訪問地としては、浅草・皇居・銀座・都庁舎が選ばれることが多い。また、近年、お台場海浜公園の人気が高く、フジテレビにも人気があるが、トヨタの展示場であるメガウェブは、特に中国発でのツアーでは、自動車の増加が著しいことを反映して、多数のコースに入れられている。新宿方面では、都内を見渡す展望台として都庁舎、夜は歓楽街としての新宿歌舞伎町が好まれ、多数のコースに組み入れられている。

### 【成田】

飛行機の搭乗の便がよいことから、成田は、夜間に入国した場合の当日の宿泊、早朝に出国する場合の前日の宿泊に選ばれることが多い。また、成田では、宿泊の翌日、搭乗するまでに時間の余裕がある場合があるが、その場合には、近くの商業施設に案内することも行われている。

## 7 おわりに

今回、主要訪日国のツアーを比較したが、それによれば、中国の場合は、名所型、発展型で、これから国力が増して行くような国に見られる形態であるのに対して、台湾の人たちは日本人でも知る人の少ない土地を訪ねるような、いわゆる観光旅行の成熟期の様相を呈しているといえる。

また、英米の団体旅行やパック旅行の、旅行形態に占める率が非常に低いこと、旅行社が最大12名の小グループのツアーであるなどと明記して少人数で募集しているものがあることによってもわかるように、米英系のツアーは、アジア系とは異なって旅行の面でも個人主義的な傾向が強いことがうかがえる。

歴史的なものを好む傾向がある米英の旅行者には、大阪は、京都や

奈良のように魅力的な都市には映らないらしく、出入国に利用する関西国際空港がなければ、観光地としてはさほど顧みられていないようである。今後は、旅客誘致にさらに英知を結集し、工夫を多方面から凝らすことが望まれる。

現在、外国人旅行者が提示することによって、博物館、飲食店その他の施設や交通機関で優待を受けることができる「ウェルカムカード」の有効地域に、大阪は18年版『観光白書』では入っていない。このような一見些細なことの改善の積み重ねも、大きな視点とともに求められるのではないだろうか。

一方、表からも見てとれるように、中国は、大阪を多数のツアーで取り入れている。21世紀は中国、インドの時代と言われており、日本に近いこと、人口が日本の10倍ほどと莫大であることから、将来最大の市場となることが予想されるため、中国という巨大市場を大切にすれば、多くの分野で相乗効果が期待できるだろう。そのためには、表面的な利益追求とならない、人間としてのつながりをわかち合え、共感できるような文化的な要素を共有することが不可欠と思われる。今年、小野妹子が隋に渡って2千年にあたる。日中の今後を考える好機である。

また、ここには取り上げていないビジネスの来阪者はかなりの数にのぼると思われることから、大阪の伝統的なビジネス上の地位をさらに生かして発展させる努力が必要と思われる。



Table with columns for Agency (旅行社), Tour Name (ツアー名), Itinerary (行程), and various regional codes (e.g., Kansai, Kinki, Chubu, Tohoku). Includes sub-sections for Taiwan and Hokkaido.

